

○2018年度（平成30年度）オリンピック交流事業「少年少女夢つなぐ野球教室」

- ・日 時：2019年（平成31年）1月14日（月・祝）
- ・場 所：常陸大宮市大宮市民運動公園 市民球場
- ・講 師：オリンピック 野上 修氏 氏【常陸大宮市出身：常陸大宮大使】
（シドニー2000オリンピック 野球競技出場）
- ・参加者：計238名（教室参加者小学1～6年…116名，一般等122名）
- ・内 容

ホストタウン交流計画の一環として、将来を担う子どもたちがオリンピックと直にふれあうことで未来への夢や希望を抱き、スポーツに対する関心などを深めるとともに東京2020大会の機運を醸成する目的で、1月14日（月）に、野球日本代表として2000年シドニーオリンピックに出場し活躍された本市出身の野上修さんを招いた野球教室を大宮運動公園市民球場で開催し、小学1年生から6年生までの児童116人と野球による交流をしました。

はじめに、背番号「9」の日本代表ユニフォームを着た野上さんとストレッチやランニングなどの準備運動をした後、野球の実技指導が行われました。キャッチボールでは「相手が取りやすい顔の正面をめがけて投げる」また、守備練習では「グローブに入ったボールをきき手で掴むまでの速さを意識し次の動作につなげることが大切」と野上さんからアドバイスがありました。打撃練習では「構え方は自由で個性があっていい。ただし、バットを持つ高さは、傘を広げて持つ位置が理想で、ボールに当てるまでの距離は最短」など具体的な動作も学びました。子どもたちの代表16人と野上さんのホームラン競争では、みんなからの応援を背に、野上さんからの指導を実践しながらの練習となりました。

最後に行われた講演会では、野上さんの小学生の頃の話で「学校から帰るとすぐ近所の凸凹のある空き地で扉にボールを当てては、グローブでキャッチする練習を毎日遅くなるまで繰り返していた」ことや大宮中学校・高校・大学・社会人時代の野球にまつわるエピソードのほか、シドニーオリンピック日本代表に選ばれた時の気持ちや出場した感想などを分かりやすく丁寧な言葉で話しました。野上さんは、「家族や周りの方々に支えてもらいながら野球をやり続けていたからこそ、オリンピックに出た今の自分がいる。とにかく野球を楽しく、できる限り長く続けてあきらめず頑張ってもらいたい。そして、今日参加したみんなの中から、いつかオリンピックに出場する選手が出てくれればとてもうれしい。」とのメッセージを子どもたちに伝えました。

参加した子どもたちは、「基本を見直すことができ、中学校の野球部にもつなげていきたい」「今日野上さんと野球をして、もっと野球が好きになりました」「野上さんのように、オリンピック選手になれるよう頑張りたい」などと話していました。

オリンピック交流事業 少年少女野球教室の様子



開会式 野上 修氏あいさつ



開会式 三次市長あいさつ



キャッチボール指導



守備練習指導



打撃練習指導



打撃練習指導



ホームラン競争



講演会